

## 2017年度摂南大学研究助成「Smart and Human研究助成金」審査結果について

### ①採択一覧表

研究代表者から19件(地域総合研究:6件、一般研究13件)の応募がありました。審査の第1段階は審査員全員5点満点で評価し、第2段階はその高評価を中心に協議し、地域総合研究5件、一般研究5件を助成することを決定しました。審査は、応募要領に記載の目的、応募条件、研究課題の募集内容に沿ったものであるかを基に選考しました。次頁に採択された研究課題の講評を記載しています。研究課題の推進と成果に期待します。

#### (1) 地域総合研究

番号	研究課題	学部等	研究代表者	共同研究者	研究協力者	助成金額 (千円)	備考
1	「すさみ町総合開発研究」から得た課題分析結果による地域社会の持続可能性に関する研究(3)	外国語	浅野 英一	理工学部 橋本 正治 他2名		800	継続 3年目
2	ブランドエクイティを高めるブランド経験の「場」の創出に関する研究—由良町における地域ブランディングを例として—	経営	鶴坂 貴恵	経営学部 栢木 紀哉 他 3名		640	
3	摂南大学が地域の拠点となるために必要な空間的条件の整理—“地域拠点としての大学”に求められる要素とは?—(2)	理工	池内 淳子	理工学部 竹原 義二 他 8名	学部生および 院生 約30名	560	継続 2年目
4	淀川水系に関する総合的研究—多様性に基づく発展ダイナミクスの探求	経済	後藤 和子	経済学部 平野 泰朗 他 13名		800	
5	日本の伝統行事と住宅のしつらい	外国語	岩間 香	理工学部 平田 陽子	大阪市立住まいの ミュージアム 谷 直樹 他 1名	400	

#### (2) 一般研究

番号	研究課題	学部等	研究代表者	共同研究者	研究協力者	助成金額 (千円)	備考
1	アクティブ・ラーニング(能動的学習)のためのティーチングスキルの実証的研究	理工	柳沢 学	経済学部 植杉大 他 24名		800	
2	地域と結びついた「異文化間相互理解と不寛容除去」の研究	法	糟谷 英之	外国語学部 浅野英一 他 7名		900	
3	知的専門職業人アセスメントの作成とWebシステム化に関する研究(3)	経営	山本 圭三	法学部 吉田 佐治子 他 1名	四国大学短期大学部 富岡 直美 他1名、学部生2名	800	継続 3年目
4	都市構造のモニタリングを目的とした空き家分布の広域推定法の開発(2)	理工	熊谷 樹一郎	理工学部 大谷 由紀子 他 3名	院生 3名	400	継続 2年目
5	新「地球共生学」及びその追求手法「地球共生デザイン」の開発に向けた実践型基礎研究	理工	白鳥 武	理工学部 川野 常夫 他 6名	学部生 7名 院生 5名	900	

## ②講評

### (1)地域総合研究

番号	研究課題	講評	備考
1	「すさみ町総合開発研究」から得た課題分析結果による地域社会の持続可能性に関する研究(3)	すさみ町をモデルとし、これまでの研究で「地方創生」の一助となる研究成果が集積しつつあるため、地域総合研究としての継続性があり、かつ意義を認める。また、COC+参加校として本研究に取り組む意義は高い。最終年の研究として、更なる自動車専用道の延長を踏まえた提言や「摂南大学型モデルケース」による他地域との連携など、これまでの実績を基にした過疎地域活性化へのさらなる取り組みを期待したい。	継続 3年目
2	ブランドエクイティを高めるブランド経験の「場」の創出に関する研究—由良町における地域ブランディングを例として—	地域ブランドの確立は、多くの市町村にとって生き残りをかけた喫緊の課題であり、その研究の意義は大いにあると考えられ、地域総合研究として実施する意義は高い。また、本研究は、本学と由良町の連携を推進する上で優れた研究内容を含んでいる。2016年度に行った由良町からの受託研究の成果を生かし、さらに地域ブランド研究を推し進め、それらが形になることを期待したい。	
3	摂南大学が地域の拠点となるために必要な空間的条件の整理—“地域拠点としての大学”に求められる要素とは？—(2)	2016年度、本研究では、摂南大学が地域の拠点となるための空間的条件の整理を企図し、本学周辺地域のモデルを作成することで、水害リスクなど本学が今後整備すべき具体的問題点を抽出し地域拠点としての大学に求められる空間条件の整理に取り組んだ。キャンパスが拡大されようとしている本学にとって、地域との融合という観点からも重要な研究課題であると言える。前年度までの成果を踏まえ、さらに研究を前進させることを大いに期待したい。	継続 2年目
4	淀川水系に関する総合的研究—多様性に基づく発展ダイナミクスの探求	本学で個別の教員により進められてきた研究を、本学とは切り離すことができない淀川水系という地域概念でまとめようとする、斬新で野心的な総合研究と言える。北河内総合研究からの発展的な研究として、全学部横断的なチームによる“総合性”を実現することにより、この地域の発展への足掛かりになることを期待したい。	
5	日本の伝統行事と住宅のしつらい	伝統文化・伝統行事の継承は地域社会にとって重要な側面であり、地域総合研究として実施する意義を認める。また、現代の一般的な住居を研究対象として、伝統文化の継承を住環境や社会背景に注目して分析しようとする方法は大変ユニークであり、研究の発展を期待したい。	

### (2)一般研究

番号	研究課題	講評	備考
1	アクティブ・ラーニング(能動的学習)のためのティーチングスキルの実証的研究	喫緊の課題であるアクティブラーニングについて、その実践に必要なティーチングスキルの明示を企図した重要な取り組みである。教職員全体を視野に入れた総合的な研究であり、本学の教育体制に及ぼす影響は大きく、また、参加者数の多さから、教育の質の向上のために本研究の成果が有効活用されるであろうことを期待したい。	
2	地域と結びついた「異文化間相互理解と不寛容除去」の研究	国連アカデミックインパクトが提唱する「異文化間相互理解と不寛容除去」を促進するための研究を政治的・法学的視点のみならず、学部横断的な研究で解明しようとした取り組みであり、多文化共生の促進が期待される点で意義深い。本学が加盟している国連アカデミックインパクトの点からも期待したい。	
3	知的専門職業人アセスメントの作成とWebシステム化に関する研究(3)	本学の教育理念にある学生の「人間力」を定量化し、学生へのフィードバックにより、学生生活の充実と卒業後の進路選択に資することを目的としており、研究の意義は大きい。「知的専門職業人アセスメント」が完成すれば、本学の教育システムの評価にも活用されることを期待したい。	継続 3年目
4	都市構造のモニタリングを目的とした空き家分布の広域推定法の開発(2)	都市構造の一端が表現される空き家の分布を水道栓データや人口密度、建物タイプ等の地理データを用いて推定しようとする試みであり、行政的、経済的価値は高い。地域の課題解決に直結した研究内容であり、研究成果は「地域活性化」の施策検討に役立てることを期待したい。	継続 2年目
5	新「地球共生学」及びその追求手法「地球共生デザイン」の開発に向けた実践型基礎研究	「地球共生学」の構築を目指した本研究は、持続可能な社会の形成、国際協力といった点から高く評価できる。先住民族を対象とすることにより、これまでの実績をさらに発展させることが期待できる。非常に幅広い内容であり、本研究内容・成果は本学が加盟する「国連アカデミックインパクト」で取り組んでいる原則にもつながるものと考えられる。本学の教育プログラムへ活用されることを期待したい。	